

自治体職員×JAMP研修講師 事例紹介Menu

自治体の職員の方にご出講いただき、事例紹介をしていただきました。

石川県加賀市

デジタル化による 消滅可能性都市の逆転劇

研修科目：行政のデジタル化の推進①

研修期間：令和5年6月5日（月）～6月9日（金）

概要：

加賀市では、県南で唯一の消滅可能性都市とされたことをきっかけに、その脱却に向け、スマートシティをめざし、人材育成と先進テクノロジーの導入を柱としたデジタル化と住民サービスの向上、地域活性化にかかる取組を進めています。

北陸地方初となるRPAの導入による機械的な事務の効率化、市区で全国3位を誇るマイナンバーカードの申請率・交付率を活かした222種類の行政手続きへの電子申請の導入、画一的な教育から創造性を生み出す教育をめざし、市内初等中等教育全てを革新するためのICTの整備や、国家戦略特区指定を活用し、北陸の地でスタートアップや科学技術イノベーションを起こす「人財育成拠点加賀市イノベーションセンター」の設置など、多種多様な事例を紹介していただきました。

取組の数が非常に多く、聴講した研修生それぞれにとって深い学びと気づきのあった時間となりました。

秋田県三種町

「住民共助」が実現させた公共交通空白地100% 解消～そして新たなコミュニティの形成へ～

研修科目：公共交通とまちづくり

研修期間：令和5年10月16日（月）～10月20日（金）

概要：

三種町では、公共交通空白地の解消のため、住民共助による定時・定路線のコンパクトなコミュニティバスが町全体を運行する取組みを実現しました。

事業の検討当初から携わった経験を基に、関係団体との調整や住民組織との協力体制を構築するまでの苦労話など、担当者ならではの具体的かつ実践的なお話を数多くいただき、同種の課題を抱えている自治体にとって大変参考となる講義でした。

岡山県真庭市

脱炭素先行地域「真庭」の挑戦 ～地域資源を生かした真庭市の戦略～

研修科目：持続可能な地域づくりと環境保全

研修期間：令和5年6月12日（月）～6月16日（金）

概要：

真庭市では、「真庭市版 地域循環共生圏」の実現のため、瀬戸内海の蠣がらを活用した里海米の生産、未利用材の活用によるバイオマス発電を用いたエネルギーの地産地消、生ごみの液肥化による農業への循環等、多様な主体との連携のもと地域資源を最大限に活用した環境・社会・経済への課題解決に取り組んでいます。

「ゼロカーボンシティまにわ」事業においては、地域を担う人材を育成するための環境教育、様々なステークホルダーとのパートナーシップ制度の構築等、多様な取組を行っています。

持続可能な地域づくりに全力で取り組まれているお話を伺い、研修生の皆さんは大いに感銘を受けたようでした。

佐賀県佐賀市

介護予防DX

研修科目：事業推進のためのデータ活用

研修期間：令和6年2月26日（月）～3月1日（金）

概要：

佐賀市は、医療・介護・健診等のビッグデータを活用し、市医師会や民生委員等と連携して重症化リスクの高い高齢者の介護予防を実施しています。

ビッグデータを分析して対象者を抽出し、最適な支援を行うとともに、個人データの追跡により効果を検証し、改善していくという『佐賀市介護予防DX』のプロセスについて、その考え方から手法に至るまで余すところなく解説いただきました。データ活用を課題解決につなげるお手本となる講義でした。